

Closure report 2019

終了報告書

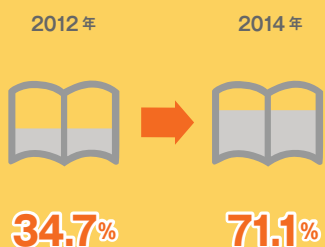
ウガンダ共和国
ナラウェヨ・キシータ地域開発プログラム
UGA-181728 (2004年度～2019年度)



ありがとうございました

皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

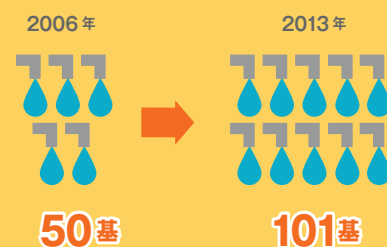
初等教育修了試験合格率



HIV/エイズの予防方法を理解している生徒の割合



地域全体の井戸の数



Education



教育

教育の「量」を改善し
「質」の充実へ

以前は多くの学校が、かやぶき屋根の簡素な校舎で、机やイスも整っていませんでした。また、小学校を卒業できない子どもたちも多くいました。2008年から2012年に、学校や教室の建設と、学習机やイスなどの支援を行った結果、2016年には学校に通うことができるようになった子どもの割合は85.7%にまで増加しました。また、読み書きの能力向上のためにクラブ活動や、読書用教材の提供、教員への研修などを行いました。保護者や地域住民に対し、子どもたちの教育を受ける権利の啓発活動などに力を入れてきました。これにより2014年には、71.1%の子どもたちが、初等教育修了試験を合格できました。



支援前

2008年に地域内にあった小学校。かやぶき屋根の校舎で、机もありませんでした

Health



保健衛生

HIV/エイズ対策

HIV/エイズの課題を
乗り越えて、子どもたちの
健康改善に取り組みました

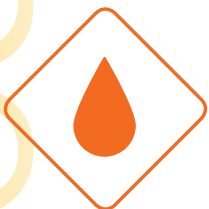
以前は、HIV/エイズの基礎的な知識が不足していたので、感染した人への誤解や差別が根強く残っていました。地域住民に対し、HIV/エイズへの理解や、予防・ケアの方法などを伝える研修を実施しました。保護者をHIV/エイズで亡くした子どもたちには、カウンセリングや生計支援を行いました。予防を推進するために、無償で検査を受けられる環境づくりにも取り組んできました。また、栄養不良の子どもたちが数多くいました。妊娠中の母親の産前検診の支援や、栄養価の高い食事の作り方に関する研修を通し、栄養不良の子どもの割合を大きく減少することができました。「病気でないこと」だけでなく、より健康な生活を目指すことができていきます。



支援後

保健センターの職員用住宅。以前は看護師が赴任を敬遠していましたが、住宅が整備され赴任を嫌がなくなりました

Water



水資源開発

いつでも安全な水に
アクセスできるよう
になりました

支援前は、33,000人余りに対し50基しか井戸がなく、またよく故障していたため、多くの住民が家畜も使っている水源から水を飲んでいました。安全で清潔な水を得られるよう、貯水用タンクの設置や、井戸の建設などを行いました。また、住民が井戸の管理を行う水管理委員会の立ち上げや、委員に対する研修を支援したことで、子どもたちや地域住民の健康を促進でき、何キロも歩いて水汲みを行う子どもの負担を大きく削減できました。また、学校にトイレや手洗い施設を設置し、水が原因となる病気の予防や衛生環境の改善に関する研修を行いました。この取り組みを世帯レベルでも実施した結果、2014年には77%の家庭にトイレができ、清潔を保てるようになりました。



支援前

井戸が少なかったため、何キロも先にある井戸まで水汲みに行っていました

Agriculture & Livelihood



農業・生計向上

自家消費のための農業から、
余剰を販売し、所得の中から一部
を貯蓄できるようになりました

多くの地域住民が農業で生計を立てていますが、家庭での消費を目的としていたので生産性が低い状態でした。そこで近代的な農業技術に関する研修や、トラクターの提供、農家グループの形成、農産物の販売の支援などを行いました。収穫した農産物の貯蔵方法の研修により、長期間保存ができるようになりました。年間を通して十分に食事をとることができる世帯が増加し、栄養バランスのある食事をとれる子どもたちの数も増加しました。また、貯蓄する習慣を身につけてもらうために貯蓄グループに対する支援も行い、農産物が不作のときや、急な出費が発生したときに備えることができ、自分たちの力で収入向上を目指せる環境が整いました。



支援後

トウモロコシの貯蔵庫。雨がしのげ、風通しも良いので腐る心配がありません

ナラウエヨ・キシータ地域 開発プログラム マネージャーよりごあいさつ



ナラウエヨ・キシータ地域
開発プログラム マネージャー
サイモン・ピーター・オロマ

皆さまからのご支援により、子どもたちと、子どもたちが暮らすこの地域に多くの幸せをもたらしてくださり、心より感謝いたします。以前は、農業、教育、保健分野と、民族間の争いにおいて大きな課題を抱えていました。15年間のご支援により、これらの問題に取り組むことができました。結果、組織能力を高め、地域の平和と子どもたちの保護を確実にし、地域が子どもたちにとって安全な場所へと変化することができました。皆さまの寛大なご支援がなければ、実現できませんでした。ここまで私たちとともに歩んでくださったスポンサーの皆さまに、改めて御礼申し上げます。

地域代表者からのごあいさつ

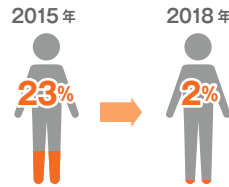


ナラウエヨ・キシータ地域の
地方議会の議長
ウラムギシャ・アイエバレ・ソロモン氏

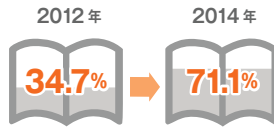
スポンサーの皆さまのご支援により、地域が子どもたちにとって安全で、過ごしやすい場所へと変化しました。ご支援前は井戸がなく、女の子が水汲みの道中で暴行に遭ったり、住民が不衛生な水によって下痢になり、家庭の経済負担が増えたりしていました。学校には教室がなく、子どもたちは木の下で勉強していました。ご支援により、すべての村に安全で清潔な水が得られる井戸ができ、子どもたちが勉強に集中できるよう、学校が整備されました。皆さまに心から感謝申し上げます。皆さまが私たちにしてくださったように、今、支援を必要としている地域へのご支援を、今後も継続してくださることを願っています。

成果

初等教育の退学率



初等教育修了試験合格率



支援後

現在では、雨風をしのげる校舎ができ、机もあります

成果

HIV/エイズの予防活動に参加し、予防方法を理解している生徒の割合



保健医療サービスを受けられる地域住民



支援後

地域でHIV/エイズに関する啓発活動を行ったり、メンバー間で協力して薬を購入するなどしています

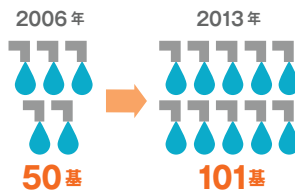
成果

安全できれいな水にアクセスできる世帯の割合

2015年



地域全体の井戸の数

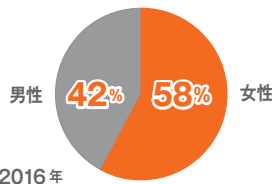


支援後

2009年に建設された井戸。現在も適切にメンテナンスされています

成果

124個の貯蓄グループの女性の割合



年間を通し、十分に食事をとることができる世帯の割合



支援後

支援された農業用歩行トラクターを使って農地を耕す農民たち

皆さまとともに歩んだ 15年間の支援と成果

準備期

2004年度

2005年度

- 住民主体の事業地域の状況調査
- 地域政府や住民との相互理解・関係構築
- 地域住民への意識喚起



事業開始を祝う子どもたち



状況調査のトレーニング風景

第1期

2006年度

2010年度

- 15個の教室を備えた学校を5棟、5個の村に5カ所の井戸を建設
- 地域住民主導で、小中学校に水タンクとトイレを設置
- 生徒や教師、地域住民へのHIV/エイズ予防知識に関する研修の実施
- HIV/エイズなどで親を亡くした子どもたちへの支援開始
- 地元行政の協力のもと、学校管理委員会の設置



子どもの権利について地域で発表する子どもたち



設置された水タンクを使う地域住民

第2期

2011年度

2014年度

- 保健センターにスタッフのための住宅8戸の建設
- 10個の村に井戸を10基と、保健センターに子ども病棟の建設と設備整備
- HIV/エイズによって両親を亡くした子どもが住む家庭や、感染者である母親が世帯主となっている家庭を対象に、養鶏のトレーニングを実施
- 農家グループへの農業の生産方法や、収穫した農作物の保存方法や収入向上に関する研修を実施
- 子どもの教育に対する保護者の理解促進のための研修を実施



新聞を読む子どもたちの様子



収入向上のため、裁縫の研修を受ける地域住民

第3期

2015年度

2019年度

- 妊娠中の母親への産前健康診断の実施
- 子どもセンターや読み書きセンターの開設と拡充
- 校庭や家庭での野菜栽培に関する研修を通し、子どもの食生活を改善
- プログラム終了後の活動の主体性と、継続計画の理解について関係者との話し合い



成長報告を書く子どもたち



栄養価の高い食事の作り方を学ぶ母親たち

支援を受けたチャイルドのストーリー

兄弟たちが学校を卒業できるように
頑張っています

マンデーさん
(20歳)

ナラウェヨ・キシータ地域で育ったマンデーさんは、支援を通して技術を学び、工場で働いています。マンデーさんが工場で働くようになったきっかけを教えてくださいました。

「私は小学校卒業後、母が授業料を払えず中学校に進めませんでした。その時、皆さまのご支援により、学校に行けない子どもたちのための職業訓練プログラムが始まりました。私は、溶接と金属組立ての6カ月コースを受け、村の工場で働き始めました。最初は見習いだったので無給でしたが、今では給料をもらい、家族の必要を満たすことができている」

また、マンデーさんは将来の夢と、スポンサーの方への想いを話してくれました。

「今では、母を支え、兄弟たちの授業料を払うことができます。兄弟にはきちんと学校を卒業してもらいたと思っています。また、私自身はこれから大学に進学したいと考えています。より多くの技術を習得し、自分の工場を始めることが目標です。スポンサーの方のご支援がなければ、地域での私の生活はここまで向上しなかったと思います。皆さまに心から感謝しています」



World Vision

この子を救う。未来を救う。

ワールド・ビジョン・ジャパンは、
キリスト教精神に基づき
世界の子どもたちを支援している国際NGOです。

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp

ホームページ：www.worldvision.jp